

尿酸値の栄養管理に関する検討

JA 三重厚生連 菰野厚生病院 薬剤部 1) 栄養科 2) 谷口 靖樹 1) 川瀬 将紀 1) 中原 さおり 2)

尿酸値の高値は生体へ負の影響をもたらすため薬物治療を行い強制的に正常値範囲内へ推移させる。ところが臨床の場では、しばし、低値を示す例が存在し、特に腹部手術例において術直後から観られる。今回、腹部待機手術例を対象に術前後における尿酸値の変動と要因について検討。対象は2011年4月から2013年9月に腹部待機手術58例のうち血清Cr値の高値と術前尿酸値の低値を認めた例を除外した42例。(上部消化管手術例20例,下部消化管手術例22例) 検討項目は、手術部位別、術後経口摂取開始別(1週間前後)に術前から術直後、7,14,21PODにおける尿酸値の変動について比較した。結果は、手術部位別(上部消化管群と下部消化管群)において術直後より低下し、7PODには最小値を示した。その後は回復に転じた。ただ、上部消化管群では21PODに術前までの回復は認められなかった。(P<0.05)。術後経口開始別(1週間以内群 n=9,1週間以上群 n=33)において各群それぞれ、術直後より低下し7PODを経過してから上昇に転じた。1週間以内群では21PODには術前まで回復。一方1週間以上群では術前まで回復が認められなかった。(p<0.01) 結語：尿酸値は消化管への侵襲や消化管使用の状況により変動することが示唆された。ただ、尿酸値は腎機能や薬剤により左右され易く、栄養管理上の有用性については今後更に観察を要する。